

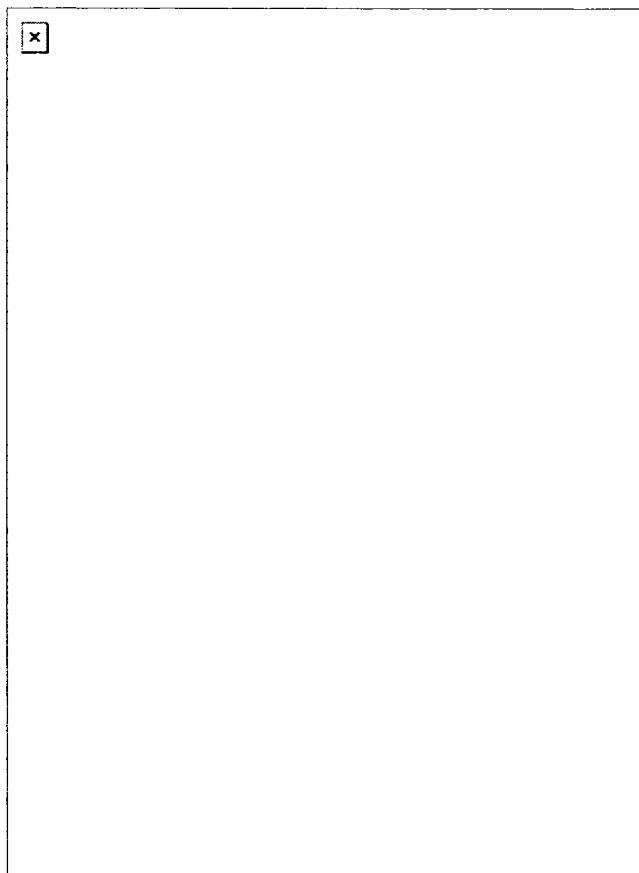
**DENTAL MIRROR HAVING AIR HOLE**

**Patent number:** JP7136110  
**Publication date:** 1995-05-30  
**Inventor:** NAKAMURA NAOTAKA  
**Applicant:** NAOTAKA NAKAMURA  
**Classification:**  
**- international:** A61B1/24; A61C19/00  
**- european:**  
**Application number:** JP19930338746 19931118  
**Priority number(s):**

**Abstract of JP7136110**

**PURPOSE:**To always keep a mirror dry and easy to view by providing air holes right close to the mirror from behind a bar-shaped part of a dental mirror to blow air to the mirror from an air jetting port.

**CONSTITUTION:**An air hole C is run through to a part right close to a mirror A of a bar-shaped part B3 from an air blowing connection part E behind a bar-shaped part of a dental mirror J and a blowoff port D is provided at the tip thereof. Then, it is so arranged that air is blown in from behind to hit a mirror surface A' accurately. Thus, in the dental mirror J, air allows the keeping of the mirror A clean and dry in an excision treatment by viewing the mirror A thereby enabling more comfortable treatment.



Data supplied from the **esp@cenet** database - Worldwide

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公 開 特 許 公 報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開平7-136110

(43) 公開日 平成7年(1995)5月30日

|                           |      |        |                |        |
|---------------------------|------|--------|----------------|--------|
| (51) Int.Cl. <sup>6</sup> | 識別記号 | 庁内整理番号 | F I            | 技術表示箇所 |
| A 6 1 B 1/24              |      |        |                |        |
| A 6 1 C 19/00             |      |        | A 6 1 C 19/ 00 | H      |

審査請求 未請求 請求項の数 1 書面 (全 2 頁)

(21) 出願番号 特願平5-338746

(22) 出願日 平成5年(1993)11月18日

(71) 出願人 591247190

中村 尚孝

群馬県前橋市鶴光路町61-2

(72) 発明者 中村 尚孝

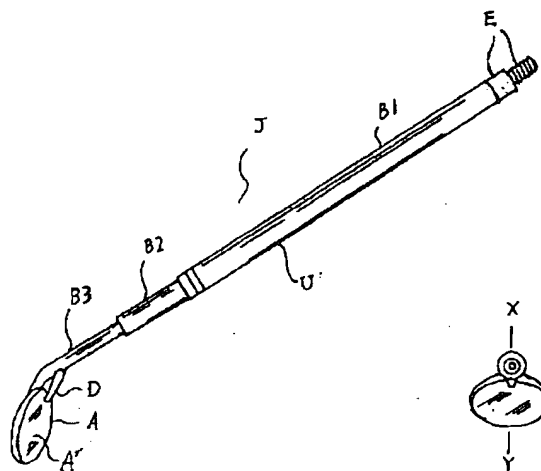
群馬県前橋市鶴光路町61の2

(54) 【発明の名称】 エアー孔が施されたデンタルミラー

(57) 【要約】

【目的】 本発明はデンタルミラーにエアー吹きつけ機構を設け 的確にミラー面を見やすい状態にする。

【構成】 デンタルミラーの棒状部に中に後方からミラー直近部までエアー孔を通したデンタルミラー



1

【特許請求の範囲】

【請求項1】 デンタルミラーの棒状部の中に、後方からミラー直近部までエアークを通してデンタルミラー

【発明の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】 本発明は歯科治療に用いられるデンタルミラーに関する。

【0002】

【従来の技術】 デンタルミラーは 治療上障害となる舌 頬 口唇等の排除に用いたり、歯の様子を治療の前後に見たり、ミラーテクニックを行なうために用いたりする。ミラーテクニックとはミラーに写っている歯を見ながら切削治療する技術である。このミラーテクニックを行なう時、唾液や歯牙切削機が噴射する水等でミラーが見えなくなるので 助手にエアークを吹きつけてもらうが、ねらいが定まりにくくまた血液や唾液のまじった水が我々の顔や手にはねかえり感染の危険があり非常に不便が多かった。

【0003】

【本発明が解決しようとする課題】 図1に示すようにミラーAに的確にエアークがあたり ミラーAがいつも水滴等でよごれていないことが必要である。

【0004】

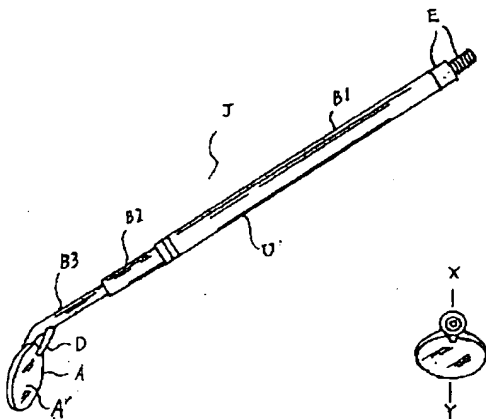
【課題を解決するための手段】 上記目的を達成するため 本発明はデンタルミラーの棒状部Eの後方からミラー直近部までエアークCを設け エアーク噴き出し口DからミラーAに的確にエアークを吹きつけミラーAをいつも乾いた見やすい状態にしようとするものである。

【0005】

【作用】 上記のように構成されたデンタルミラーJは、ミラーAを見ながら切削治療するときエアークがミラーAをきれいな乾いた状態に的確に保つことができる。

【0006】

【図1】



2

【本発明の実施例】 以下図面に示す実施例により 本発明を詳細に説明する。

【0007】 図1に示すようにデンタルミラーJの棒状部の後方のエアーク吹き込み接続部Eから 棒状部B3のミラー直近部まで 断面図に示すようにエアークCを通して吹き出し口Dを設け後方からエアークを吹き込みミラー面A'にエアークを吹きつける構成である。

【0008】

【本発明の効果】 以上の説明から明らかなように 本発明にあっては次に列挙する効果が得られる。

【0009】 デンタルミラーの棒状部B1、B2、B3、Eの中に後方からミラー直近部までエアークを通してエアーク設定デンタルミラーであるため、助手によるミラーに向かって吹きつける不確実なミラー面A' 清掃ではなく 的確にミラー面A' に吹きつけることができる本発明により、より快適な治療が可能となるのである。

【図面の簡単な説明】

【図1】 斜視図および背面図

【図2】 断面図 (X-Y方向)

【図3】 平面図 左側面図

【符号の説明】

J デンタルミラー

B1 デンタルミラー棒状部

B2 デンタルミラー棒状部

B3 デンタルミラー棒状部

D エアーク吹き出し口

A ミラー部

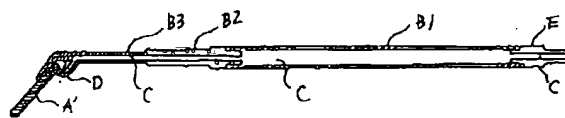
A' ミラー面

E エアーク吹き込み接続口

U 棒状部

C エアーク

【図2】



【図3】

